



<https://www.hcr.or.jp>

CONTENTS

H.C.R. 2019 福祉機器利用者アンケート
集計結果報告～利用者の期待が多く寄せられました～ - 1

保健福祉広報協会のFacebookページで
H.C.R. 2019展示製品をチェック! - 1

H.C.R.セミナーの内容をWeb公開しました! - 1

H.C.R. 2019 福祉機器利用者アンケート
回答の概要 - 1

H.C.R.セミナー 2019報告
福祉施設の実践事例発表
～役立つ、活かせる工夫とアイデア～
(高齢者福祉分野) - 3

新刊「認知症高齢者にやさしいまちづくり
～その実践と、アートを活用した支援にみる可能性～」
好評販売中! - 8

第46回国際福祉機器展H.C.R. 2019の
開催映像をアップしました - 8

編集・発行：一般財団法人 保健福祉広報協会
Publisher : Health and Welfare Information Association

住所：〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

International Home Care & Rehabilitation Exhibition

本号では、H.C.R. 2019の会期中に実施した「福祉機器利用者アンケート」の集計結果や、H.C.R.セミナー「福祉機器の実践事例発表～役立つ、活かせる工夫とアイデア」にて紹介した高齢者福祉施設・事業所の活動報告をご紹介します。

H.C.R. 2019 福祉機器利用者アンケート 集計結果報告～利用者の期待が多く寄せられました～

わが国では、65歳以上の高齢者人口がピークに達するといわれる2040年頃に向けて、介護を必要とする高齢者はこれまで以上に増加していくと見込まれています。また、介護を必要としない高齢者や障害者であっても、自立生活や社会参加のさらなる促進のために、福祉機器への需要や期待は高まり、とくに福祉機器の利用に対するニーズは年々、多様化しています。しかし、一方で、利用に関するニーズを伝える手段や場が少ないという状況があります。ニーズがどこまで多様化しているのかという情報を直接知ることができる機会がH.C.R.であり、利用者の声を福祉機器の開発企業や販売企業に提供させていただくため、福祉機器利用者やその支援者を対象とする「福祉機器利用者アンケート」をH.C.R. 2019会期中に実施し、1,002件の回答を得ました。

回答者の内訳は、男性が40%、女性が60%、年齢別では、60歳代以上が6%、福祉機器利用者が多いと思われる高齢者層の割合が一桁台であったのに対し、30歳代が15%、40歳代が27%、50歳代が29%と比

較的若い世代の方がたの回答が多くありました。これは支援を必要としている人や家族に対し、福祉機器を活用して支えている方がたの回答が多くあったと考えられます。

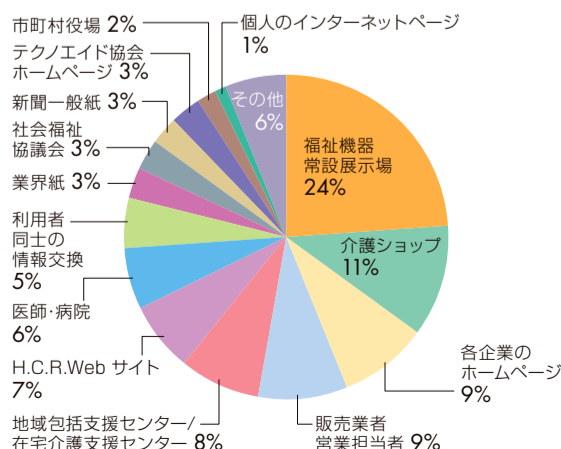
また、本アンケートにおいて特に福祉機器利用者の関心が高かった、「福祉機器情報の入手方法」、「購入/レンタル時の相談窓口」、「福祉機器の利用にあたって望まれること」についての回答をまとめたグラフを下記にて紹介しています。さらに、それらの設問の概要ならびに「福祉機器の開発や利用についての意見・要望（フリーアンサー）」の概要については、本号の2頁にてまとめています。

本会では、今回のアンケート結果を参考とし、H.C.R.をはじめとした事業をとおして、福祉機器利用者に関わる情報の発信に努めます。また、福祉機器開発・販売関係者の皆さまにも、開発・販売を行うなかでアンケート結果を参考にいただければ幸いです。

H.C.R. 2019 福祉機器利用者アンケート 回答の概要

1 福祉機器情報の入手方法 (※複数回答可)

福祉機器情報の入手方法は、「福祉機器常設展示場」が24%と最も多く、次いで「介護ショップ」が11%、さらに「販売業者営業担当者」と「各企業のホームページ」が9%と並び、「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」が8%という結果になりました。これらは、機器を実際に「見て、聞いて、触れて、相談して」確かめられる特徴があり、福祉機器情報を求めるうえで欠かせない点であると推測されます。



保健福祉広報協会の Facebookページで H.C.R. 2019展示製品を チェック!

H.C.R. Webサイトでは、H.C.R. 2019の展示製品のうち1,200点超の製品を検索し、出展社に資料請求することができます。Webサイトから資料請求された製品を、本会の公式Facebookページにて随時紹介しています。

本年1月には76点を、2月には67点を写真付きで紹介したとともに、製品の詳細に関するリンク先を紹介しています。ぜひご活用ください。

URL : <https://www.facebook.com/hcrjapan/>



H.C.R.セミナーの内容を Web公開しました!

第46回国際福祉機器展H.C.R. 2019の会期中に開催したH.C.R.セミナーには2,500名を超える参加者がありました。

それらのセミナーのうち、一部の内容をまとめ、H.C.R. Webページにて「H.C.R. セミナー REPORT」として紹介しています。ぜひご覧ください。

[掲載レポート]

- 利用者・家族向けセミナー
 - 障害者文化芸術活動の推進と展望
 - 障害のある人が社会参加しやすい共生社会の実現～2020年とそれ以降に向けた取り組みと課題～
- 福祉施設役職員向け
 - 福祉施設の実践事例発表～役立つ、活かせる工夫とアイデア～/高齢者福祉分野 ※本紙3～8頁にて紹介。
 - 福祉施設の実践事例発表～役立つ、活かせる工夫とアイデア～/障害者福祉分野
 - 新卒人材確保にかかる最新動向と広報のあり方について
 - 「働き方改革」のねらいと働きやすい職場づくり～介護福祉分野を中心に～
 - 施設で役立つ介護ロボット・ICTの最新動向
- 企業関係者向け
 - 日本が持つ介護・福祉イノベーションの海外展開とその必要性

また、例年好評をいただいています「はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー」については、全講義動画と副読本を紹介しています。

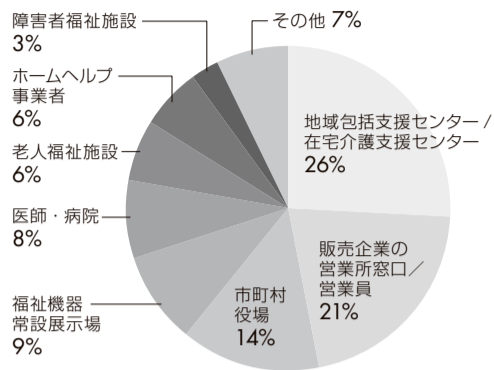
URL : <https://www.hcr.or.jp/useful>



H.C.R. 2019 福祉機器利用者アンケート 回答の概要

2 購入/レンタル時の相談窓口

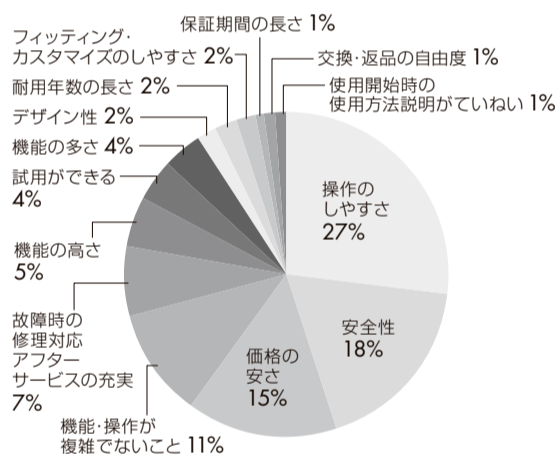
(※複数回答可)



福祉機器の購入/レンタル時の相談窓口として、例年同様に「地域包括支援センター/在宅介護支援センター」が26%と最も多い結果となりました。これは、福祉・介護の専門職が必置されていることから、福祉機器利用者それぞれの状況にあわせた適切な相談に対応できることが背景にあると考えられます。次いで「販売企業の営業所窓口/営業員」が21%であり、そのほかも例年の割合になりました。

3 福祉機器の利用にあたって望まれること

(※3つまで選択可)



福祉機器の利用にあたって望むこととして、昨年引き続き「操作のしやすさ」が27%と最も多く、誰でも簡単に操作できる機器の開発への要請が求められていると考えられます。次いで、「安全性」を求める声が多くあがりました。従来は2番目であった「価格の安さ」を上回った形となっています。最先端の技術を活用し、便利さを追求する機器の開発が注目されていることと、同時に安全面にも十分に保障する視点も欠かせないという意識の表れと考えられます。

4 福祉機器の開発や利用についての意見・要望

(フリーアンサー)

例年、福祉機器の試用やメンテナンス、安全性、費用負担の軽減などへの対応を求める声が多く寄せられる中、今回はとくに、福祉機器利用者をはじめ、家族や施設関係者などからも、それぞれの方がたがもつニーズを反映させた機器の開発・利用への意見が多くありました。本会ではいただいた意見や要望を集約し、次の4項目に分類しました。

■福祉機器の開発に期待する意見

①いろいろな機能が備わるのは良い面もありますが、

たいていの場合、使いこなせません。操作がわかりやすく、使いやすかつ安全である機器を希望します。現状としてベッド用品でも操作ボタンが多すぎると感じます。

- ②福祉用具を造られる際には、心と身体すべてを含む「トータルケア」に配慮していただきたいと思ひます。
- ③壊れやすいものが多いと感じます。アフターケアも充分でなく、壊れても自分で修理している状況です。
- ④もう少しデザイン性のある可愛らしい福祉機器が選べるよう、多彩な種類を作ってほしいです。
- ⑤家の広さを考えると、収納するにも場所をとらない、コンパクトで安定した福祉機器がほしいです。
- ⑥リハビリ機器で、利用者がもっと楽しめるような工夫を取り入れてほしいです（たとえば、結果がわかりやすく表として表示されるなど）。
- ⑦介護者だけでなく、利用者本人も使い方が簡単に理解できるような説明書の作成を希望します。また、機器本体に記された表示にしても、文字のサイズや文字の種類にも配慮していただきたいです。
- ⑧海外製の機器はデザイン性が高いものが多く、こういったセンスをもっと取り入れてほしいと考えます。
- ⑨介護者が楽になる視点から作られた機器が多いと感じており、支援が必要な方の目線で本当に必要な機器をつくってほしいと考えます。
- ⑩大切なのは軽量であり、シンプルで使いやすいこと、入手が容易なことです。加えて、レンタル、リースの活用ができる製品であることも肝要です。
- ⑪住宅改修の必要がなくなるような福祉機器・用具の種類がさらに増えてほしいと考えます。
- ⑫少しでも長く在宅で暮らしたいため、ひとり暮らしでも使える福祉機器・用具をたくさん作ってほしいです。
- ⑬メーカーによつての、機器の互換性をもっと高めることができないでしょうか。
- ⑭高齢者用機器であってもパーツを変えると、障害児でも使えるものがたくさんあるので、関係者の方には高齢者同様、子どもサイズも念頭において開発していただきたいです。
- ⑮福祉機器開発者は現場を見にきて意見を聞き取り、安くて利便性を向上した製品を作っていってほしいです。
- ⑯一人ひとりのニーズに応じてカスタマイズできる機器がリーズナブルに入手できるよう工夫してほしいです。
- ⑰機器の開発チームに高齢者や障害のある人を積極的に雇用していく方向がよいのではないかと思います。

■福祉機器の販売やレンタル・展示に関する意見

- ①エンドユーザーが購入できる価格の製品の開発をお願いします。カタログで見ても、一般的に売られている製品と比べて福祉用具は値段が高いため、買えなかったり、レンタル対象になっていなかったりします。
- ②デモ機器の導入活用を、リハビリ施設や病院、福祉施設においてさらにすすめてほしいです。
- ③介護保険で購入できる範囲の価格のものや、レンタル機器等の種類が増えるとありがたいです。
- ④販売時等に、その福祉機器のデメリット面もしっかり伝えていただくことも、利用者への対応として重要です。
- ⑤身近に福祉用具を体験したり見聞きできる場ももっと多くあるとよいと考えます。機器を利用している高齢者は情報を得る場まで行くことができず、不自由さを感じたまま使い続けている事例を多く見かけます。
- ⑥機器の使用体験をする機会があつても、専門的な用

語が多いためわかりにくいです。

- ⑦機器の説明時に、サイズや素材がもっとわかるような資料表記や案内にしてほしいです。
- ⑧福祉用具を取り扱う事業者がデモンストレーションや体験会を開催してくれていますが、日程が合わないと試す機会が少なくなってしまうため、そうした機会をさらに増やしていただきたいです。
- ⑨レンタル機器を必要以上に求め、結果として、使用上のけがにつながってしまう人が多いと感じます。
- ⑩介助を補助する用品等はどんどん試してみたいと思っています。たとえば、大人用のオムツでは肌にやさしいものが手頃な価格にできないでしょうか。
- ⑪福祉機器の開発でも試用モニターを募ったりするなど、アピールを大々的に行うのもよいと思います。
- ⑫大きな製品に関してはカタログ掲載や宣伝がなされていますが、杖や日常的な介助用品などをもっと宣伝していただきたいと感じます。
- ⑬年々、福祉機器利用者の人数は多くなっているのに、価格は安くなっていると感じません。

■今後の開発に期待したい具体的な福祉機器・用具

- ①クッションなどは総じて価格が高いように感じます。定期的に交換したいのですが、なかなかできません。
- ②靴について、機能性はあつても、サイズとして幅が大きいものが多かったり、地味なものが多いように感じます。多くの年代が使用できる靴がほしいです。
- ③一人でも着ることができ車いすユーザー用の雨カッパを製作してほしいと考えます。
- ④季節に合わせた衣服を着たいのですが、種類が限定されてしまいます。とくに冬は保温効果のある服とするなど、季節に応じたものがほしいです。
- ⑤在宅での車いす利用を考えると、一律なシートベルト装備ではなく、誰が使う場合であってもシートベルト脱着の選択ができるような車いすを希望します。
- ⑥在宅で、立ち上がりのための介助や排せつ介助につながる機器を、購入しやすい価格でもっと増やしてほしいと思います。
- ⑦筋緊張が高い方が使用できる車いすがもっと多様にあるとよいと考えます。
- ⑧現状以上に、ロボット介護支援機器やIoT技術の発達と普及に期待しています。

■福祉機器利用者の情報収集や企業による情報発信に関する意見

- ①機器開発をすすめる際に、どのように利用者の意見を集めているのかを知りたいです。
- ②改良にあたっては、ユーザーの声をさらに丁寧に汲み取ってすすめてほしいです。
- ③中小規模の開発企業にも行政がもっとバックアップできるような仕組みにしたいです。
- ④各メーカーが作った製品を比較できる資料やサービスがあると便利だと思います。
- ⑤福祉機器の利用感想やよしあしについて、簡単に投稿できるようなWebサイトがあるとよいと思います。
- ⑥製品の開発や販売において、企業間の情報共有をもう少し深めていただきたいと思ひます。
- ⑦今後の開発予定のものや開発中であることを具体的に知ることができる場があるとよいと思ひます。
- ⑧便利な機器や高機能の機器が開発されてきているので、どれを選べばよいか迷います。たとえば、ネット上で自分の条件にあった福祉機器選定のアドバイスが得られるようなサイトがあるとよいと思ひます。
- ⑨災害時に利用できる福祉機器の情報をもっとたくさん知りたいです。